

淡路で再発見されたヒメハルゼミ

堀 田 久

ヒメハルゼミは、南方系の昆虫の代表的なものと考えられ、日本での分布の北限として、新潟県能生・茨城県片庭・千葉県鶴枝の3カ所は、国の天然記念物に指定されている。淡路島では、1933年に川原忠雄氏により三原郡八木村馬廻で記録されたが、その後採集されず、まぼろしのゼミとさえいわれていた。

神大農学部の奥谷先生は、数年前からこのゼミを探しつづけられ（実は筆者も昨年先生から調査を依頼された1人であるが）今年も7月13日には先生御自身で調査に来られた。そのヒメハルゼミが、本会の会員である武田義明氏によって、ついに再発見されたのである。

武田義明氏は、本年7月論鶴羽山頂にある論鶴羽神社のシイ林で鳴声を聞き、奥谷教授に連絡、同教授は7月29日に現地へ行かれて、ヒメハルゼミの生息を確認されたのである。論鶴羽神社のまわりには樹齢500年余のシイの大木林が残っており、ここが生息地になっている。さらに山頂から西へ4~5kmの間にも原生林があり、生息している可能性もあるといわれている。

なお、筆者はこのヒメハルゼミの再発見について、奥谷先生より直接お便りをいただいたが本年8月13日付の朝日新聞紙上に紹介されている。また、12月1日付の神戸新聞、兵庫探検自然編(15)でもヒメハルゼミの特集記事があり、さらに昆虫と自然の本年9月号にも、「兵庫県にヒメハルゼミを訪ねて」と題する奥谷先生の報文が載せられている。

いずれにしても、瀬戸内沿岸では宮島にしか知られていなかったヒメハルゼミが、本会の会員によって淡路島で再発見されたことは、誠に意義深いことであり、本会にとっても喜ばしい限りである。

洲本市相川でクロコノマチヨウ

本年(1971年)8月10、洲本市相川で、本会々員の武田義明氏が、クロコノマチヨウを1頭採集されたとのことである。淡路の蝶がまた1種類ふえたことは、我々淡路に住む虫屋にとって、たいへん嬉しいことである。

なお、このことについては、登日邦明氏がMDK Vol. 23, No.2に発表されている。